

2016年 中堅・中小企業におけるストレージ形態の選択と機能ニーズに関する動向予測

調査設計/分析/執筆: 岩上由高

ノークリサーチ (本社〒120-0034 東京都足立区千住1-4-1東京芸術センター1705; 代表: 伊嶋謙二 TEL: 03-5244-6691
URL: <http://www.norkresearch.co.jp>) は中堅・中小企業におけるストレージ形態の選択と機能ニーズに関する調査を実施した。
本リリースは「2016年版 中堅・中小企業におけるストレージ活用の動向予測レポート」のサンプル/ダイジェストである。

<幅広いストレージ形態の視点から年商規模毎に異なる機能ニーズを把握することが大切>

- 中小企業層では定型データ用途は「更新導入」、非定型データ用途は「追加導入」が多い
- 今後はストレージ市場もオンプレミス/クラウド双方を含めた形態分類で捉える必要がある
- 中堅企業層の隣接する年商帯においてもストレージの機能ニーズは少しずつ異なってくる

対象企業: 日本全国/全業種の年商500億円未満の中堅・中小企業
対象職責: 「企業経営もしくはITの導入/選定/運用作業」かつ「ストレージの導入/管理の意思決定または実作業」に関わる職責
調査実施時期: 2016年5月中旬
有効回答件数: 328件
※調査対象の詳しい情報については右記URLを参照 http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2016storage_usr_rep.pdf

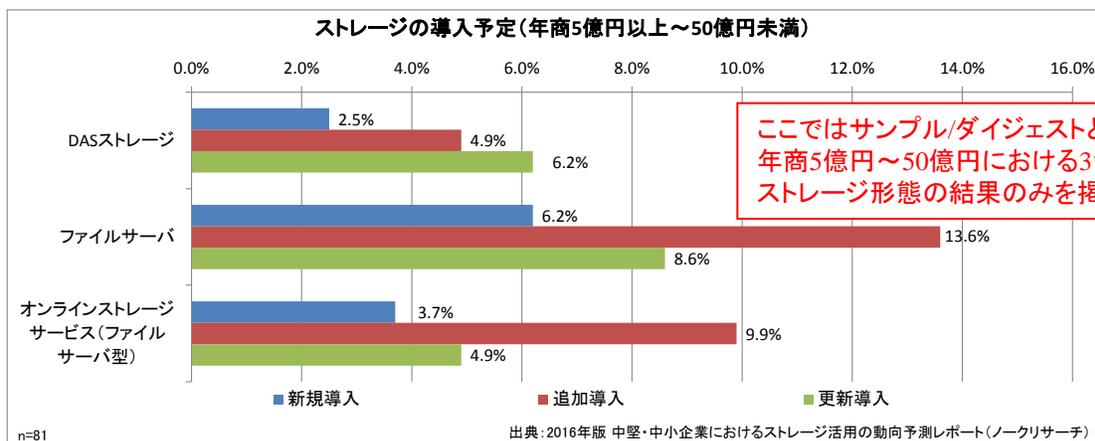
中小企業層では定型データ用途は「更新導入」、非定型データ用途は「追加導入」が多い

中堅・中小企業においてもストレージはデータ保管/管理の役割を担う重要なシステム基盤の1つだ。以前は「中堅・中小企業は扱うデータ量が少ないため、ストレージ導入につながる用途はバックアップくらいしかない」という見方も一部にはあった。だが、昨今では中堅・中小企業においても取り扱うデータ量は増加しつつある。また、ストレージ形態にも様々なものが登場し、大企業のみならず中堅・中小企業にとっても検討すべき選択肢が広がってきている。

以下のグラフは年商5億円以上～50億円未満の中小企業層に対して、「今後一年以内にどのようなストレージを導入する予定があるか? その際の導入パターンはどのようなものか?」を尋ねた結果のうち「DASストレージ」、「ファイルサーバ」、「オンラインストレージサービス(ファイルサーバ型)」の3つのストレージ形態に関するデータを表したものだ。(ストレージ形態の詳細については次頁に記載) 導入パターンの説明は以下の通りである。

新規導入: 全く新しい業務システムで用いるために「ストレージ」を導入する場合
追加導入: 既に稼働中の業務システムに「ストレージ」を追加/増強する場合
更新導入: 既に稼働中の業務システムの「ストレージ」を入れ替える場合

「DASストレージ」(主に業務システムデータなどの定型データの格納先となるストレージ)では「更新導入」が他のパターンと比べて若干多い一方、「ファイルサーバ」や「オンラインストレージサービス(ファイルサーバ型)」(主にオフィス文書などの非定型データの格納先となるストレージ)では「追加導入」が最も多くなっている。このようにストレージの提案/販売を考える上では「どの年商帯においてどのようなストレージ形態がどのようなパターンで今後は導入されるのか?」を把握することが重要となってくる。次頁以降で上記に関する集計/分析を行った調査レポートの一部をサンプル/ダイジェストとして紹介する。



今後はストレージ市場もオンプレミス/クラウド双方を含めた形態分類で捉える必要がある

本リリースの元となる調査レポート「2016年版 中堅・中小企業におけるストレージ活用の動向予測レポート」では「ストレージ」を「データを格納/保存するハードウェアやサービス」と定義している。「サービス」という用語が含まれていることからわかるように、「ハードウェアとしてのストレージ機器」に加え、「クラウド形態で提供されるオンラインストレージサービス」も含まれる点に注意する必要がある。ストレージの分類方法は様々だが、本レポートではサーバH/Wやパソコンからのアクセス(接続)形態に基づいて以下のように分類している。

<<ストレージ機器>>(オンプレミス)

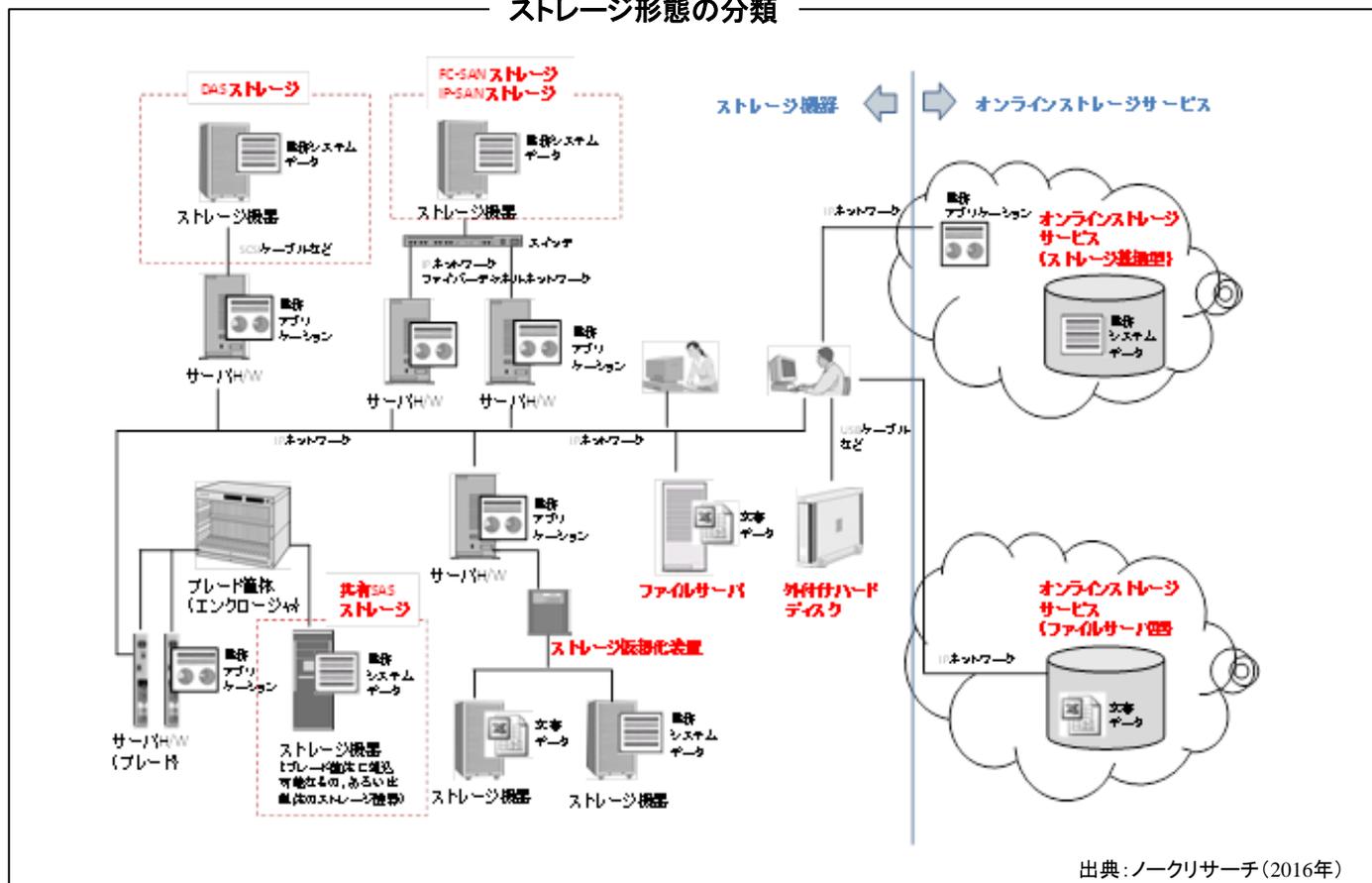
<u>DASストレージ:</u>	特定のサーバH/Wとストレージ機器を直接接続する形態
<u>共有SASストレージ:</u>	筐体(エンクロージャ)などを介して複数のサーバH/W(主にブレード)でストレージ機器を共有する形態
<u>IP-SANストレージ:</u>	iSCSI、FCoEなどIPネットワークで複数のサーバH/Wとストレージ機器を接続する形態
<u>FC-SANストレージ:</u>	ファイバーチャネルネットワークで複数のサーバH/Wとストレージ機器を接続する形態
<u>ストレージ仮想化装置:</u>	複数のストレージ機器を束ねて単体機器のような管理/運用を実現するハードウェア
<u>ファイルサーバ:</u>	LAN(IPネットワーク)経由で複数のサーバH/Wやパソコンからファイルの読み書きができる形態
<u>外付けハードディスク:</u>	USBケーブルなどを用いてハードディスクを特定のサーバH/Wやパソコンと直接接続する形態

<<オンラインストレージサービス>>(クラウド)

<u>オンラインストレージサービス(ファイルサーバ型):</u>	社内に設置されたファイルサーバと同じように各PCからアクセスしてファイルの参照/編集を行えるサービス
<u>オンラインストレージサービス(ストレージ基盤型):</u>	業務アプリケーションとAPIを介して接続し、データの格納場所やバックアップ先として活用されるサービス

これらを図示すると以下ようになる。このように、サーバだけでなくストレージにおいても「ストレージ機器」(オンプレミス)と「オンラインストレージサービス(クラウド)」の双方を俯瞰した広い視点を持つておくことが重要となってくる。

ストレージ形態の分類



出典: ノークリサーチ(2016年)

中堅企業層の隣接する年商帯においてもストレージの機能ニーズは少しずつ異なってくる

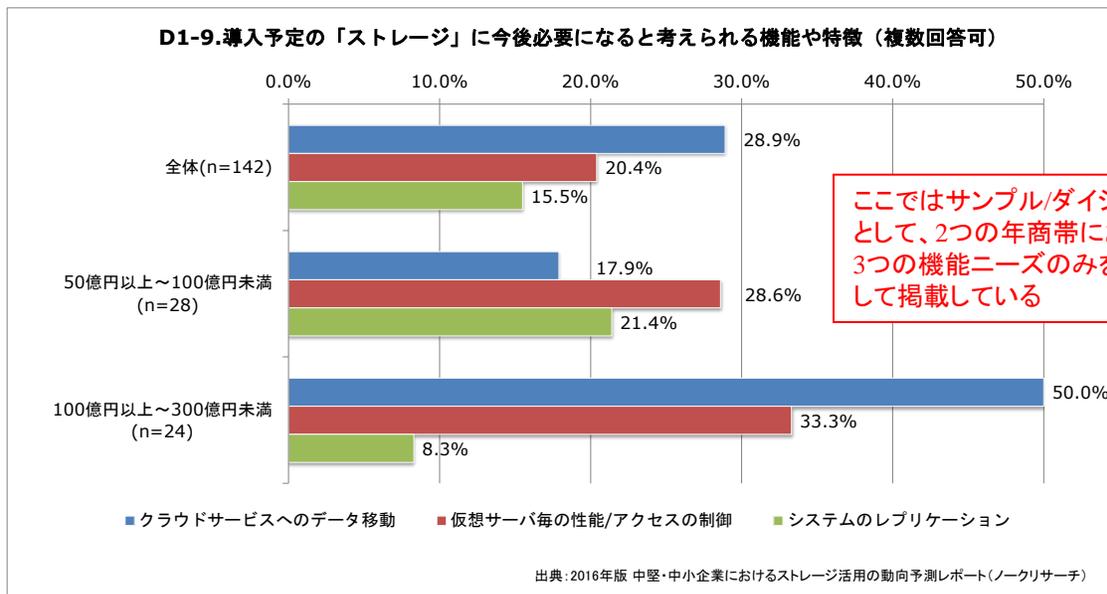
中堅・中小企業におけるストレージ市場を把握するためには先に述べた「ユーザ企業の年商規模」「ストレージ形態」「導入パターン」に加えて、「ベンダ名やサービス業者名」「ストレージの用途」「ストレージのディスク容量」「ストレージの利用人数」「初期導入費用」「年額運用費用」「機能ニーズ」などといった様々な観点が必要となる。(本リリースの元となる調査レポートで網羅されている項目の詳細については右記のURLを参照 http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2016storage_usr_rep.pdf)

例えば、「導入予定のストレージに今後必要になると考えられる機能や特徴」(上記の「機能ニーズ」に相当)を尋ねた設問における選択肢は以下のように多岐に渡っている。

クラウドサービスへのデータ移動: (※1)	容量が超過したデータや利用頻度の低いデータを自動的にクラウドサービスに退避させる
クラウドサービスへのバックアップ:	クラウドサービスにデータをバックアップする
仮想サーバ毎の性能/アクセスの制御: (※2)	ハイパバイザを用いて分離されたサーバ環境毎に読み書き性能や接続可能なネットワークを指定できる
コンテナ毎の性能/アクセスの制御:	コンテナを用いて分離されたサーバ環境毎に読み書き性能や接続可能なネットワークを指定できる
アプリケーション毎の性能/アクセスの制御:	アプリケーション毎に読み書き性能や接続可能なネットワークを指定できる
データのレプリケーション:	災害や障害に備えて、ネットワークを介して遠隔地へデータを複製する
システムのレプリケーション: (※3)	災害や障害に備えて、ネットワークを介して遠隔地へOSやアプリケーションといったシステム全体を複製する
プライマリデータの圧縮/重複排除:	日々の業務で読み書きするデータに処理を施し、消費するディスク容量を抑える
バックアップデータの圧縮/重複排除:	障害発生時などに備えて保存/保管しておくデータに処理を施し、消費するディスク容量を抑える
シンプロビジョニング:	システム毎の割当容量と実消費容量を管理することで、全体のディスク消費を効率化する
異種ディスク混在RAID:	異なる性能や種類のハードディスクをまとめてRAIDを構成できる
ホットスワップ/ホットアド:	ストレージ機器の利用を停止せずにディスクや筐体の交換や増設ができる
スナップショット:	実データではなく、ある時点のデータ状態を保持しておくことによってバックアップ処理を効率化する
マルチパス対応:	サーバH/Wとストレージ機器の間に複数の通信経路を確保し、耐障害性や処理性能を高める

以下のグラフは年商50億円以上～100億円以上の中堅下位企業層および年商100億円以上～300億円未満の中堅中位企業層における※1、※2、※3の機能ニーズに対する回答結果を集計したものだ。(本リリースの元となる調査レポートでは全ての年商帯を対象として、上記の全ての機能ニーズについて尋ねた結果が収録されている)

年商500億円未満全体と比較した場合、「仮想サーバ毎の性能/アクセスの制御」(※2)は中堅下位と中堅中位のいずれも高い値を示しており、仮想サーバを意識したストレージ管理が求められていることがわかる。「クラウドサービスへのデータ移動」(※1)は中堅中位では全体よりも高いが、中堅下位では全体より低い。逆に「システムのレプリケーション」(※3)は中堅下位では全体より高いが、中堅中位では全体より低い。中堅中位は中堅下位と比べて※3のシステム保護の取り組みも進んでいる一方で、取り扱うデータ量も多いため※1の対策が新たに必要になっているものと考えられる。このように隣接する年商帯の間でもストレージの機能ニーズは少しずつ異なってくる点に注意する必要がある。



調査レポート最新刊のご案内

「2016年版 中堅・中小企業におけるストレージ活用の動向予測レポート」

本リリースの元となる調査レポート。「中堅・中小企業においてもデータ量は増加しつつある、その受け皿は何処になるのか？」

レポート案内: http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2016storage_usr_rep.pdf

発刊日 2016年7月4日 価格: 180,000円(税別)

その他、ご好評いただいている2016年の最新刊レポート

サーバ関連レポート 各冊180,000円(税別)

以下の姉妹編レポートを2冊同時購入の場合は240,000円(税別)、3冊同時購入の場合は380,000円(税別)

「2016年版 中堅・中小企業におけるサーバ/IaaS導入の動向予測レポート」

「今後の新規導入予定ではオンプレミスが減少する一方でクラウドが増加」、この変化にどう対応すべきか?

レポート案内: http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2016server_usr_rep1.pdf

「2016年版 中堅・中小企業におけるサーバ仮想化活用の動向予測レポート」

「ハイパーコンバージドインフラ」は中堅・中小企業におけるサーバ仮想化活用を加速する決め手となるか?

レポート案内: http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2016server_usr_rep2.pdf

「2016年版 中堅・中小企業におけるサーバ調達先選定の動向予測レポート」

サーバ調達先を変更する予定の中堅・中小企業は3割超、顧客の喪失を防ぐためには何が必要なのか?

レポート案内: http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2016server_usr_rep3.pdf

「ノークリサーチ Quarterly Report 2016年冬版 特別編」

2016年の中堅・中小IT投資市場に影響を与える注目トピックを網羅した定点観測調査レポートの特別編集版

レポート案内: http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2016QRwin_rep.pdf

ダイジェスト(サンプル):

「Windows 10の活用意向」 http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2016QRwin_rel_sp1.pdf

「マイナンバー制度への対応状況」 http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2016QRwin_rel_sp2.pdf

「Office製品の新しい販売形態」 http://www.norkresearch.co.jp/pdf/2016QRwin_rel_sp4.pdf

価格: 180,000円(税別)

お申し込みはホームページ(<http://www.norkresearch.co.jp>)から、またはinform@norkresearch.co.jp宛にメールにてご連絡ください。

カスタムリサーチのご案内

「カスタムリサーチ」はクライアント企業様個別に設計・実施される調査とコンサルティングです。

1. 調査企画提案書の提示:

初回ヒアリングに基づき、調査実施要綱(調査対象とスケジュール、費用など)をご提案させていただきます

2. 調査設計:

調査企画提案に基づき、具体的な調査方法の選定、調査票の設計/作成やインタビュー取材計画立案を行う

3. 実施と集計:

設計された調査を実施し、その結果を集計する

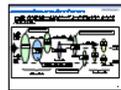
4. 分析:

集計結果を分析し、レポートを作成する

5. 提言:

分析結果を基にした提言事項を作成し、報告する

多彩な調査方法が活用できます。



定量調査(アンケート調査)

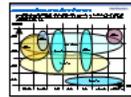
ユーザ企業の実態とニーズを数値的に把握したい
販社やSIerが望む製品やサービスの動向を知りたい

定性調査(インタビュー調査)

ユーザ企業が抱える課題を個別に詳しく訊きたい
販社やSIerがベンダに何を期待しているかを訊きたい

デスクトップリサーチ

競合他社の動向などを一通り調べたい



本データの無断引用・転載を禁じます。引用・転載をご希望の場合は下記をご参照の上、担当窓口にお問い合わせください。

引用・転載のポリシー: <http://www.norkresearch.co.jp/policy/index.html>

当調査データに関するお問い合わせ

株式会社 ノークリサーチ 担当: 岩上 由高

東京都足立区千住1-4-1東京芸術センター1705

TEL 03-5244-6691 FAX 03-5244-6692

inform@norkresearch.co.jp

www.norkresearch.co.jp

NORKRESEARCH